

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q001 BL2-015

国際法務 / CISG / 形式：○×

次の記述は正しいか。
CISGは、国際物品売買契約に関する国際条約である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：適用の有無や排除条項を確認する。
要点：CISG

Q002 BL2-016

国際法務 / 国際私法 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
国際私法は、刑務所の管理だけを定める法律である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：法の適用に関する通則法などが関係する。
要点：国際私法

Q003 BL2-031

国際法務 / CISG適用排除 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
CISGを適用したくない場合、契約で明確に適用排除を定めることがある。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：準拠法条項だけでは排除が明確でない場合がある。
要点：CISG適用排除

Q004 BL2-032

国際法務 / 英文契約の定義条項 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
英文契約では、定義条項を置くことが法律上禁止されている。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：大文字表記の定義語などに注意する。
要点：英文契約の定義条項

Q005 BL2-047

国際法務 / 外国判決の承認 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
外国判決を日本で効力あるものとするには、民事訴訟法上の要件が問題となる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：管轄・送達・公序・相互保証などが問題となる。
要点：外国判決の承認

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q006 BL2-048

国際法務 / 完全合意条項 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
完全合意条項は、契約締結後に必ず全条項を無効にする条項である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：契約前交渉資料の扱いに影響する。

要点：完全合意条項

Q007 BL2-063

国際法務 / 国際仲裁 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
国際仲裁は、国境を越える商事紛争でよく利用される手続である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：仲裁地・仲裁機関・言語を定める。

要点：国際仲裁

Q008 BL2-064

国際法務 / 補償条項 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
補償条項は、損失負担を一切定めてはならない条項である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：Indemnity条項としてよく用いられる。

要点：補償条項

Q009 BL2-079

国際法務 / ニューヨーク条約 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
ニューヨーク条約は、外国仲裁判断の承認・執行に関係する条約である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：国際仲裁の実効性を支える。

要点：ニューヨーク条約

Q010 BL2-080

国際法務 / 国際送金規制 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
国際送金は、相手国や制裁対象に関係なく常に自由である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：金融機関の確認や制裁リスト照合が重要である。

要点：国際送金規制

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q011 BL2-094

国際法務 / 国際契約 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
国際契約では、準拠法を定めることが法律上禁止されている。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：法制度や言語の違いを前提に条項設計する。

要点：国際契約

Q012 BL2-095

国際法務 / 輸出管理 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
輸出管理では、貨物・技術が規制対象か確認する必要がある。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：外為法やリスト規制・キャッチオール規制が関係する。

要点：輸出管理

Q013 BL2-096

国際法務 / 制裁条項 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
制裁条項は、国際取引のリスク管理と無関係である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：相手方・最終需要者・仕向地を確認する。

要点：制裁条項

Q014 BL2-110

国際法務 / インコタームズ / 形式：○×

次の記述は正しいか。
インコタームズは、国内の労働時間を定める法律である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：FOB、CIF、DAPなどが代表例である。

要点：インコタームズ

Q015 BL2-111

国際法務 / 外為法 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
外為法は、対外取引や安全保障貿易管理に関係する法律である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：輸出・投資・制裁対応で重要である。

要点：外為法

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q016 BL2-126

国際法務 / CISG / 形式：○×

次の記述は正しいか。
CISGは、国内の株式会社設立だけを定める会社法である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：適用の有無や排除条項を確認する。

要点：CISG

Q017 BL2-127

国際法務 / 国際私法 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
国際私法は、国際的な私法関係でどの国の法を適用するかを定める。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：法の適用に関する通則法などが関係する。

要点：国際私法

Q018 BL2-142

国際法務 / CISG適用排除 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
CISGは、当事者の合意で一切排除できない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：準拠法条項だけでは排除が明確でない場合がある。

要点：CISG適用排除

Q019 BL2-143

国際法務 / 英文契約の定義条項 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
英文契約では、定義条項で用語の意味を明確にすることが多い。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：大文字表記の定義語などに注意する。

要点：英文契約の定義条項

Q020 BL2-158

国際法務 / 外国判決の承認 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
外国判決は、日本で常に自動的かつ無条件に強制執行できる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：管轄・送達・公序・相互保証などが問題となる。

要点：外国判決の承認

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q021 BL2-159

国際法務 / 完全合意条項 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
完全合意条項は、契約書が当事者間の完全な合意であることを示す条項である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：契約前交渉資料の扱いに影響する。

要点：完全合意条項

Q022 BL2-185

国際法務 / 国際仲裁 / 形式：2択

次のうち、「国際仲裁」について正しい説明はどちらか。

1. 国際仲裁は、国境を越える商事紛争でよく利用される手続である。
2. 有利誤認表示は、景品表示法上常に適法である。

答え・解説

正答：国際仲裁は、国境を越える商事紛争でよく利用される手続である。

超簡単な解説：仲裁地・仲裁機関・言語を定める。

要点：国際仲裁

Q023 BL2-186

国際法務 / 補償条項 / 形式：2択

次のうち、「補償条項」について正しい説明はどちらか。

1. 株式譲渡制限会社では、株式譲渡を法律上完全に禁止しなければならない。
2. 補償条項は、一定事由による損失を相手方に補填させる条項である。

答え・解説

正答：補償条項は、一定事由による損失を相手方に補填させる条項である。

超簡単な解説：Indemnity条項としてよく用いられる。

要点：補償条項

Q024 BL2-201

国際法務 / ニューヨーク条約 / 形式：2択

次のうち、「ニューヨーク条約」について正しい説明はどちらか。

1. ニューヨーク条約は、外国仲裁判断の承認・執行に関係する条約である。
2. 36協定は、年次有給休暇の取得を全面禁止する協定である。

答え・解説

正答：ニューヨーク条約は、外国仲裁判断の承認・執行に関係する条約である。

超簡単な解説：国際仲裁の実効性を支える。

要点：ニューヨーク条約

Q025 BL2-202

国際法務 / 国際送金規制 / 形式：2択

次のうち、「国際送金規制」について正しい説明はどちらか。

1. ステルスマーケティングは、表示規制上まったく問題にならない。
2. 国際送金では、制裁・マネロン規制・外為法などを確認する必要がある。

答え・解説

正答：国際送金では、制裁・マネロン規制・外為法などを確認する必要がある。

超簡単な解説：金融機関の確認や制裁リスト照合が重要である。

要点：国際送金規制

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q026 BL2-216

国際法務 / 国際契約 / 形式：2択

次のうち、「国際契約」について正しい説明はどちらか。

1. 著作権は、契約によって一切譲渡できない。
2. 国際契約では、準拠法・裁判管轄・仲裁条項を明確にすることが重要である。

答え・解説

正答：国際契約では、準拠法・裁判管轄・仲裁条項を明確にすることが重要である。

超簡単な解説：法制度や言語の違いを前提に条項設計する。

要点：国際契約

Q027 BL2-217

国際法務 / 輸出管理 / 形式：2択

次のうち、「輸出管理」について正しい説明はどちらか。

1. 輸出管理では、貨物・技術が規制対象か確認する必要がある。
2. 債権譲渡では、対抗要件は一切問題にならない。

答え・解説

正答：輸出管理では、貨物・技術が規制対象か確認する必要がある。

超簡単な解説：外為法やリスト規制・キャッチオール規制が関係する。

要点：輸出管理

Q028 BL2-218

国際法務 / 制裁条項 / 形式：2択

次のうち、「制裁条項」について正しい説明はどちらか。

1. 目的条項は、契約解釈において常に完全に無意味である。
2. 制裁条項は、経済制裁対象者との取引禁止や解除を定める。

答え・解説

正答：制裁条項は、経済制裁対象者との取引禁止や解除を定める。

超簡単な解説：相手方・最終需要者・仕向地を確認する。

要点：制裁条項

Q029 BL2-232

国際法務 / インコタームズ / 形式：2択

次のうち、「インコタームズ」について正しい説明はどちらか。

1. 根抵当権は、特定の一債権しか担保できない抵当権である。
2. インコタームズは、国際売買で費用負担や危険移転を示す取引条件である。

答え・解説

正答：インコタームズは、国際売買で費用負担や危険移転を示す取引条件である。

超簡単な解説：FOB、CIF、DAPなどが代表例である。

要点：インコタームズ

Q030 BL2-233

国際法務 / 外為法 / 形式：2択

次のうち、「外為法」について正しい説明はどちらか。

1. 外為法は、対外取引や安全保障貿易管理に関係する法律である。
2. 36協定は、年次有給休暇の取得を全面禁止する協定である。

答え・解説

正答：外為法は、対外取引や安全保障貿易管理に関係する法律である。

超簡単な解説：輸出・投資・制裁対応で重要である。

要点：外為法

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q031 BL2-248

国際法務 / CISG / 形式：2択

次のうち、「CISG」について正しい説明はどちらか。

1. ドメイン名は、商標権や不正競争防止法と一切関係しない。
2. CISGは、国際物品売買契約に関する国際条約である。

答え・解説

正答：CISGは、国際物品売買契約に関する国際条約である。

超簡単な解説：適用の有無や排除条項を確認する。

要点：CISG

Q032 BL2-249

国際法務 / 国際私法 / 形式：2択

次のうち、「国際私法」について正しい説明はどちらか。

1. 国際私法は、国際的な私法関係でどの国の法を適用するかを定める。
2. 保全命令は、判決確定後にだけ必ず出される命令である。

答え・解説

正答：国際私法は、国際的な私法関係でどの国の法を適用するかを定める。

超簡単な解説：法の適用に関する通則法などが関係する。

要点：国際私法

Q033 BL2-264

国際法務 / CISG適用排除 / 形式：2択

次のうち、「CISG適用排除」について正しい説明はどちらか。

1. 債権者代位権は、債務者の権利を消滅させるだけの制度である。
2. CISGを適用したくない場合、契約で明確に適用排除を定めることがある。

答え・解説

正答：CISGを適用したくない場合、契約で明確に適用排除を定めることがある。

超簡単な解説：準拠法条項だけでは排除が明確でない場合がある。

要点：CISG適用排除

Q034 BL2-265

国際法務 / 英文契約の定義条項 / 形式：2択

次のうち、「英文契約の定義条項」について正しい説明はどちらか。

1. 英文契約では、定義条項で用語の意味を明確にすることが多い。
2. 社外取締役は、会社の従業員だけが就任できる役職である。

答え・解説

正答：英文契約では、定義条項で用語の意味を明確にすることが多い。

超簡単な解説：大文字表記の定義語などに注意する。

要点：英文契約の定義条項

Q035 BL2-280

国際法務 / 外国判決の承認 / 形式：2択

次のうち、「外国判決の承認」について正しい説明はどちらか。

1. 清算条項は、紛争解決後の再紛争防止と無関係である。
2. 外国判決を日本で効力あるものとするには、民事訴訟法上の要件が問題となる。

答え・解説

正答：外国判決を日本で効力あるものとするには、民事訴訟法上の要件が問題となる。

超簡単な解説：管轄・送達・公序・相互保証などが問題となる。

要点：外国判決の承認

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q036 BL2-281

国際法務 / 完全合意条項 / 形式：2択

次のうち、「完全合意条項」について正しい説明はどちらか。

1. 完全合意条項は、契約書が当事者間の完全な合意であることを示す条項である。
2. 下請代金の支払遅延は、下請法上常に許される。

答え・解説

正答：完全合意条項は、契約書が当事者間の完全な合意であることを示す条項である。

超簡単な解説：契約前交渉資料の扱いに影響する。

要点：完全合意条項

Q037 BL2-296

国際法務 / 国際仲裁 / 形式：2択

次のうち、「国際仲裁」について正しい説明はどちらか。

1. 人物写真は、本人の許諾なく広告に自由に使える。
2. 国際仲裁は、国境を越える商事紛争でよく利用される手続である。

答え・解説

正答：国際仲裁は、国境を越える商事紛争でよく利用される手続である。

超簡単な解説：仲裁地・仲裁機関・言語を定める。

要点：国際仲裁

Q038 BL2-297

国際法務 / 補償条項 / 形式：2択

次のうち、「補償条項」について正しい説明はどちらか。

1. 補償条項は、一定事由による損失を相手方に補填させる条項である。
2. 国際送金は、相手国や制裁対象に関係なく常に自由である。

答え・解説

正答：補償条項は、一定事由による損失を相手方に補填させる条項である。

超簡単な解説：Indemnity条項としてよく用いられる。

要点：補償条項

Q039 BL2-312

国際法務 / ニューヨーク条約 / 形式：2択

次のうち、「ニューヨーク条約」について正しい説明はどちらか。

1. 時間外労働をさせても、割増賃金は一切不要である。
2. ニューヨーク条約は、外国仲裁判断の承認・執行に関係する条約である。

答え・解説

正答：ニューヨーク条約は、外国仲裁判断の承認・執行に関係する条約である。

超簡単な解説：国際仲裁の実効性を支える。

要点：ニューヨーク条約

Q040 BL2-313

国際法務 / 国際送金規制 / 形式：2択

次のうち、「国際送金規制」について正しい説明はどちらか。

1. 国際送金では、制裁・マネロン規制・外為法などを確認する必要がある。
2. 著作権は、契約によって一切譲渡できない。

答え・解説

正答：国際送金では、制裁・マネロン規制・外為法などを確認する必要がある。

超簡単な解説：金融機関の確認や制裁リスト照合が重要である。

要点：国際送金規制

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q041 BL2-327

国際法務 / 国際契約 / 形式：2択

次のうち、「国際契約」について正しい説明はどちらか。

1. 国際契約では、準拠法・裁判管轄・仲裁条項を明確にすることが重要である。
2. 労働保険とは、健康保険と厚生年金保険だけをいう。

答え・解説

正答：国際契約では、準拠法・裁判管轄・仲裁条項を明確にすることが重要である。

超簡単な解説：法制度や言語の違いを前提に条項設計する。

要点：国際契約

Q042 BL2-328

国際法務 / 輸出管理 / 形式：2択

次のうち、「輸出管理」について正しい説明はどちらか。

1. 組織再編は、労働契約や債権者保護と一切関係しない。
2. 輸出管理では、貨物・技術が規制対象が確認する必要がある。

答え・解説

正答：輸出管理では、貨物・技術が規制対象が確認する必要がある。

超簡単な解説：外為法やリスト規制・キャッチオール規制が関係する。

要点：輸出管理

Q043 BL2-329

国際法務 / 制裁条項 / 形式：2択

次のうち、「制裁条項」について正しい説明はどちらか。

1. 制裁条項は、経済制裁対象者との取引禁止や解除を定める。
2. 裁判上の和解は、裁判所外の口約束だけを意味する。

答え・解説

正答：制裁条項は、経済制裁対象者との取引禁止や解除を定める。

超簡単な解説：相手方・最終需要者・仕向地を確認する。

要点：制裁条項

Q044 BL2-349

国際法務 / 国際契約 / 形式：4択

次のうち、「国際契約」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 組織再編は、労働契約や債権者保護と一切関係しない。
2. インサイダー取引は、市場の公正性を高めるため常に許される。
3. 国際契約では、準拠法・裁判管轄・仲裁条項を明確にすることが重要である。
4. 非公開会社は、会社情報を一切作成しなくてよい会社である。

答え・解説

正答：国際契約では、準拠法・裁判管轄・仲裁条項を明確にすることが重要である。

超簡単な解説：法制度や言語の違いを前提に条項設計する。

要点：国際契約

Q045 BL2-350

国際法務 / 輸出管理 / 形式：4択

次のうち、「輸出管理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 解除条項は、契約書に定めることが法律上禁止されている。
2. 輸出管理では、貨物・技術が規制対象が確認する必要がある。
3. 反社会的勢力排除条項は、コンプライアンス上まったく不要である。
4. 株主名簿は、株式会社では作成してはならない。

答え・解説

正答：輸出管理では、貨物・技術が規制対象が確認する必要がある。

超簡単な解説：外為法やリスト規制・キャッチオール規制が関係する。

要点：輸出管理

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q046 BL2-351

国際法務 / 制裁条項 / 形式：4択

次のうち、「制裁条項」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 制裁条項は、経済制裁対象者との取引禁止や解除を定める。
2. 所有権留保は、売買契約で一切利用できない。
3. 与信管理は、売掛金回収リスクと一切関係がない。
4. 清算条項は、紛争解決後の再紛争防止と無関係である。

答え・解説

正答：制裁条項は、経済制裁対象者との取引禁止や解除を定める。

超簡単な解説：相手方・最終需要者・仕向地を確認する。

要点：制裁条項

Q047 BL2-365

国際法務 / インコタームズ / 形式：4択

次のうち、「インコタームズ」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 時効完成猶予は、時効期間を過去に戻して消滅させる制度である。
2. インコタームズは、国際売買で費用負担や危険移転を示す取引条件である。
3. 商標の類否は、文字数だけで機械的に決まる。
4. 弁護士照会は、誰でも弁護士名で自由に乱用できる制度である。

答え・解説

正答：インコタームズは、国際売買で費用負担や危険移転を示す取引条件である。

超簡単な解説：FOB、CIF、DAPなどが代表例である。

要点：インコタームズ

Q048 BL2-366

国際法務 / 外為法 / 形式：4択

次のうち、「外為法」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 営業秘密は、社外に公開していても常に営業秘密として保護される。
2. 民事再生は、法人に一切利用できない手続である。
3. 入札談合は、公共入札で公正競争を高める適法行為である。
4. 外為法は、対外取引や安全保障貿易管理に関係する法律である。

答え・解説

正答：外為法は、対外取引や安全保障貿易管理に関係する法律である。

超簡単な解説：輸出・投資・制裁対応で重要である。

要点：外為法

Q049 BL2-381

国際法務 / CISG / 形式：4択

次のうち、「CISG」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 会計監査人は、会社の営業販売だけを担当する従業員である。
2. CISGは、国際物品売買契約に関する国際条約である。
3. 募集株式の発行では、会社法上の手続は一切不要である。
4. 詐欺行為取消権は、債権者保護とは無関係である。

答え・解説

正答：CISGは、国際物品売買契約に関する国際条約である。

超簡単な解説：適用の有無や排除条項を確認する。

要点：CISG

Q050 BL2-382

国際法務 / 国際私法 / 形式：4択

次のうち、「国際私法」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 国際私法は、国際的な私法関係でどの国の法を適用するかを定める。
2. ソフトウェア使用許諾では、利用範囲を定めてはならない。
3. 内部通報制度は、企業のコンプライアンスと無関係である。
4. 文書提出命令は、裁判所が文書を破棄する命令である。

答え・解説

正答：国際私法は、国際的な私法関係でどの国の法を適用するかを定める。

超簡単な解説：法の適用に関する通則法などが関係する。

要点：国際私法

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q051 BL2-397

国際法務 / CISG適用排除 / 形式：4択

次のうち、「CISG適用排除」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 使用者は、職場の安全について一切配慮義務を負わない。
2. 表明保証は、売買契約やM&Aでは絶対に使われない。
3. CISGを適用したくない場合、契約で明確に適用排除を定めることがある。
4. 電子署名は、紙文書の押印を常に法律上禁止する制度である。

答え・解説

正答：CISGを適用したくない場合、契約で明確に適用排除を定めることがある。

超簡単な解説：準拠法条項だけでは排除が明確でない場合がある。

要点：CISG適用排除

Q052 BL2-398

国際法務 / 英文契約の定義条項 / 形式：4択

次のうち、「英文契約の定義条項」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 外国判決は、日本で常に自動的に無条件に強制執行できる。
2. 目的条項は、契約解釈において常に完全に無意味である。
3. 英文契約では、定義条項で用語の意味を明確にすることが多い。
4. 時効完成猶予は、時効期間を過去に戻して消滅させる制度である。

答え・解説

正答：英文契約では、定義条項で用語の意味を明確にすることが多い。

超簡単な解説：大文字表記の定義語などに注意する。

要点：英文契約の定義条項

Q053 BL2-413

国際法務 / 外国判決の承認 / 形式：4択

次のうち、「外国判決の承認」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 保全命令は、判決確定後にだけ必ず出される命令である。
2. 外国判決を日本で効力あるものとするには、民事訴訟法上の要件が問題となる。
3. 仮処分は、金銭債権の最終回収だけを意味する。
4. 完全合意条項は、契約締結後に必ず全条項を無効にする条項である。

答え・解説

正答：外国判決を日本で効力あるものとするには、民事訴訟法上の要件が問題となる。

超簡単な解説：管轄・送達・公序・相互保証などが問題となる。

要点：外国判決の承認

Q054 BL2-414

国際法務 / 完全合意条項 / 形式：4択

次のうち、「完全合意条項」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 利益相反取引は、会社法上いかなる規制も受けない。
2. 入札談合は、公共入札で公正競争を高める適法行為である。
3. 完全合意条項は、契約書が当事者間の完全な合意であることを示す条項である。
4. 育児・介護休業は、企業が任意で完全に無視できる制度である。

答え・解説

正答：完全合意条項は、契約書が当事者間の完全な合意であることを示す条項である。

超簡単な解説：契約前交渉資料の扱いに影響する。

要点：完全合意条項

Q055 BL2-429

国際法務 / 国際仲裁 / 形式：4択

次のうち、「国際仲裁」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 株主名簿は、株式会社では作成してはならない。
2. 文書提出命令は、裁判所が文書を破棄する命令である。
3. ノウハウ契約では、秘密保持条項を置くことが法律上禁止されている。
4. 国際仲裁は、国境を越える商事紛争でよく利用される手続である。

答え・解説

正答：国際仲裁は、国境を越える商事紛争でよく利用される手続である。

超簡単な解説：仲裁地・仲裁機関・言語を定める。

要点：国際仲裁

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q056 BL2-430

国際法務 / 補償条項 / 形式：4択

次のうち、「補償条項」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 反社会的勢力排除条項は、コンプライアンス上まったく不要である。
2. 職務発明では、従業員の発明は常に本人の私物として会社は一切関与できない。
3. 補償条項は、一定事由による損失を相手方に補填させる条項である。
4. 労働保険とは、健康保険と厚生年金保険だけをいう。

答え・解説

正答：補償条項は、一定事由による損失を相手方に補填させる条項である。

超簡単な解説：Indemnity条項としてよく用いられる。

要点：補償条項

Q057 BL2-445

国際法務 / ニューヨーク条約 / 形式：4択

次のうち、「ニューヨーク条約」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 検収を行うと、契約不適合責任は常に完全に消滅する。
2. ドメイン名は、商標権や不正競争防止法と一切関係しない。
3. ニューヨーク条約は、外国仲裁判断の承認・執行に関係する条約である。
4. 譲渡担保は、日本の実務で担保として利用されない。

答え・解説

正答：ニューヨーク条約は、外国仲裁判断の承認・執行に関係する条約である。

超簡単な解説：国際仲裁の実効性を支える。

要点：ニューヨーク条約

Q058 BL2-446

国際法務 / 国際送金規制 / 形式：4択

次のうち、「国際送金規制」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 募集株式の発行では、会社法上の手続は一切不要である。
2. ソフトウェア使用許諾では、利用範囲を定めてはならない。
3. 株主名簿は、株式会社では作成してはならない。
4. 国際送金では、制裁・マネロン規制・外為法などを確認する必要がある。

答え・解説

正答：国際送金では、制裁・マネロン規制・外為法などを確認する必要がある。

超簡単な解説：金融機関の確認や制裁リスト照合が重要である。

要点：国際送金規制

Q059 BL2-460

国際法務 / 国際契約 / 形式：4択

次のうち、「国際契約」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 解除条項は、契約書に定めることが法律上禁止されている。
2. 国際仲裁は、当事者の合意がなくても常に強制される刑事手続である。
3. 国際契約では、準拠法・裁判管轄・仲裁条項を明確にすることが重要である。
4. 株主代表訴訟は、役員が株主を訴える制度である。

答え・解説

正答：国際契約では、準拠法・裁判管轄・仲裁条項を明確にすることが重要である。

超簡単な解説：法制度や言語の違いを前提に条項設計する。

要点：国際契約

Q060 BL2-461

国際法務 / 輸出管理 / 形式：4択

次のうち、「輸出管理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 輸出管理では、貨物・技術が規制対象が確認する必要がある。
2. 電子署名は、紙文書の押印を常に法律上禁止する制度である。
3. オープンソースは、どのような条件でも完全に自由に利用できる。
4. 株主名簿は、株式会社では作成してはならない。

答え・解説

正答：輸出管理では、貨物・技術が規制対象が確認する必要がある。

超簡単な解説：外為法やリスト規制・キャッチオール規制が関係する。

要点：輸出管理

ビジネス実務法務検定試験2級 - 国際法務

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q061 BL2-462

国際法務 / 制裁条項 / 形式：4択

次のうち、「制裁条項」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 優良誤認表示は、消費者保護に役立つため推奨される。
2. 制裁条項は、経済制裁対象者との取引禁止や解除を定める。
3. 詐害行為取消権は、債権者保護とは無関係である。
4. 外国判決は、日本で常に自動的かつ無条件に強制執行できる。

答え・解説

正答：制裁条項は、経済制裁対象者との取引禁止や解除を定める。

超簡単な解説：相手方・最終需要者・仕向地を確認する。

要点：制裁条項

Q062 BL2-476

国際法務 / インコタームズ / 形式：4択

次のうち、「インコタームズ」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. インコタームズは、国際売買で費用負担や危険移転を示す取引条件である。
2. ドメイン名は、商標権や不正競争防止法と一切関係しない。
3. 取締役は、会社利益に反して自己利益を優先する義務を負う。
4. 利益相反取引は、会社法上いかなる規制も受けない。

答え・解説

正答：インコタームズは、国際売買で費用負担や危険移転を示す取引条件である。

超簡単な解説：FOB、CIF、DAPなどが代表例である。

要点：インコタームズ

Q063 BL2-477

国際法務 / 外為法 / 形式：4択

次のうち、「外為法」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 証拠は、紛争が起きてから相手方に作成してもらえば常に足りる。
2. 育児・介護休業は、企業が任意で完全に無視できる制度である。
3. 外為法は、対外取引や安全保障貿易管理に関係する法律である。
4. 買いたたきは、下請法上推奨される取引慣行である。

答え・解説

正答：外為法は、対外取引や安全保障貿易管理に関係する法律である。

超簡単な解説：輸出・投資・制裁対応で重要である。

要点：外為法

Q064 BL2-492

国際法務 / CISG / 形式：4択

次のうち、「CISG」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 下請代金の支払遅延は、下請法上常に許される。
2. 時効完成猶予は、時効期間を過去に戻して消滅させる制度である。
3. 補償条項は、損失負担を一切定めてはならない条項である。
4. CISGは、国際物品売買契約に関する国際条約である。

答え・解説

正答：CISGは、国際物品売買契約に関する国際条約である。

超簡単な解説：適用の有無や排除条項を確認する。

要点：CISG

Q065 BL2-493

国際法務 / 国際私法 / 形式：4択

次のうち、「国際私法」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 民事再生は、法人に一切利用できない手続である。
2. 時効更新は、時効期間を常に半分に短縮する制度である。
3. 36協定は、年次有給休暇の取得を全面禁止する協定である。
4. 国際私法は、国際的な私法関係でどの国の法を適用するかを定める。

答え・解説

正答：国際私法は、国際的な私法関係でどの国の法を適用するかを定める。

超簡単な解説：法の適用に関する通則法などが関係する。

要点：国際私法